

## 式 辞

漆黒の闇の中を、赤々と燃えるたいまつ  
の火が、駆け巡る、古都奈良・東大寺  
のお水取りも終わりに近づき、いよいよ  
本格的な春の到来を感じさせる今日の佳  
き日。

御来賓の方々のご臨席のもと、大阪市  
立玉出中学校「第66回卒業式」を、こ

の様に盛大に挙行できますこと、卒業生と共に、厚く御礼申しあげます。

また、公私何かとご多用にもかかわりませず、卒業生の祝福に駆け付けていただき、新たな旅立ちに華を添えていただきましたこと、重ねて御礼申しあげます

保護者のみな様、お子様のご卒業おめでとうございます。

ただいま、109名の卒業生に卒業証書をお渡しいたしました。

3年前に新入生として、玉出中学校の門をくぐられた時には、まだ子どもものの面影が抜け切らず、幼かったお子様が、今こうして、逞しく成長された姿を、目の当たりにされ、お喜びも一入の事と、拝察いたします。

3年間、本校教育の推進に、ご支援・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。ありがとうございました。

第66期卒業生のみなさん、卒業おめでとうございます。私の話を聞いていただきのも、今日が最後となりました。みなさんとは、一年間ではありましたが、この玉出中学校で、ともに生活をしてま

いりました。

着任した時から、気軽に声をかけ、温かく迎えてくれ、親しみを込めて接してくれたことを、今でも、うれしく思っています。

校長として、みなさんの為に、何ができたのか、楽しい学校生活が送れたのか、少々、不安ではありますが、しかし、明

るく元気な君たちを見ていると、自然に  
勇気が湧いてきます。

「光陰矢のごとし」時間の過ぎるのが  
余りにも早く、「あっ」という間の一年間  
でした。保護者のみな様も同じ思いでは  
ないでしょうか。

振り返って見れば、長野県への修学旅  
行は、着いてすぐの体験活動。

二日目朝の天竜川でのラフティング。  
午後から三日目にかけての各地域での民泊体験。

普段味わえない田舎での民泊体験では、各家庭での手伝いや、食事・お風呂等楽しいひと時を過ごすことができました。

修学旅行の中で、何よりも人のやさしさ・暖かさを学んだことが、一番の収穫

であったと思います。

二泊三日の短い旅ではありましたが、心のやさしい生徒がたくさんいる事に、嬉しさを感じました。

体育大会では、各クラスの息の合った行進と男子は、集団行動に、女子は、ソウラン節に、それぞれ学年が一つになり、短い練習期間ではありましたが、見事に

仕上がり、見る人に感動を与えました。

文化祭では、クラス単位で貼り絵と合唱を行い、とても素晴らしい出来ばえでした。

保護者のみなさんも、この子供たちの成長を、頼もしく感じられたことと思います。

体育大会・文化祭の中で、団結するこ

との難しさを、肌で感じながら、成し遂げたことへの達成感を、味わいました。

今、みなさんはそれぞれの進路に向かって、全速力で走っています。時には、孤独感で押し潰されそうになったり、投げ出されたり、する時も、あると思います。

しかし、君たちは決して、一人ではあ

りません。困難をともに乗り越えてきた  
109名の「なかま」がいます。

109名の「なかま」には、109の「人  
生」があり、109の「個性」がある。

そして、109の「やさしさ」がある  
と信じています。

勇気を持って立ち向かってください。

玉出中学校では「人にやさしい教育・

人に優しい玉中生を育てる」を目標としました。

やさしさとは、相手の個性を尊重し、個性の違いを認めあうことから、生まれてくるものだと、思っています。

君たちひとり一人の、個性を伸ばすことが、大切だと言う事を、新ためて考えさせてくれました。

最後に、卒業は、「別れ」ではありますが、  
『次への“出発”』でもあります。  
その出発に際し、みなさんに言葉をひとつ贈りたいと思います。吉田松陰の言葉です。

吉田松陰は、幕末の人物ですが、松下村塾という塾を開き、久坂玄瑞、高杉晋作、伊藤博文、山縣有朋らを輩出し、後

の日本に、大きな影響を与えた人物です。

その吉田松陰の言葉に、次の言葉があります。

「今日よりぞ 幼心を打ち捨てて 人と  
成りにし 道を踏めかし」

これは、今日からは、親に甘えていた  
気持ちを捨てて、ひとり立ちした人とな  
るために、力強く歩んでいこう、という

意味です。

もう一度言います。

「今日よりぞ 幼心を打ち捨てて 人と  
成りにし 道を踏めかし」

義務教育を終えた今日を区切りに、今  
まであった甘えを捨てて、力強く歩み、  
さまざまな場所で活躍され、また、いつ  
の日かふるさと玉出中学校に帰ってきて

いただくことを願い、はなむけの言葉と  
します。

それでは卒業生のみなさん、お別れの  
ときが来ました。

新しい舞台に立つみなさんが、青春の  
一ページを過ごした、この玉出中学校を、  
絶対に忘れないでください。

みなさんが、平和な世界の担い手とし

て活躍されることを、

そして、みなさんの未来が、輝かしく  
幸多いことを、心より祈念して、式辞と  
いたします。

平成31年3月14日

大阪市立玉出中学校

校長 村瀬香織